

大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 長崎大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2020年度・(タイプA②))
 プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム

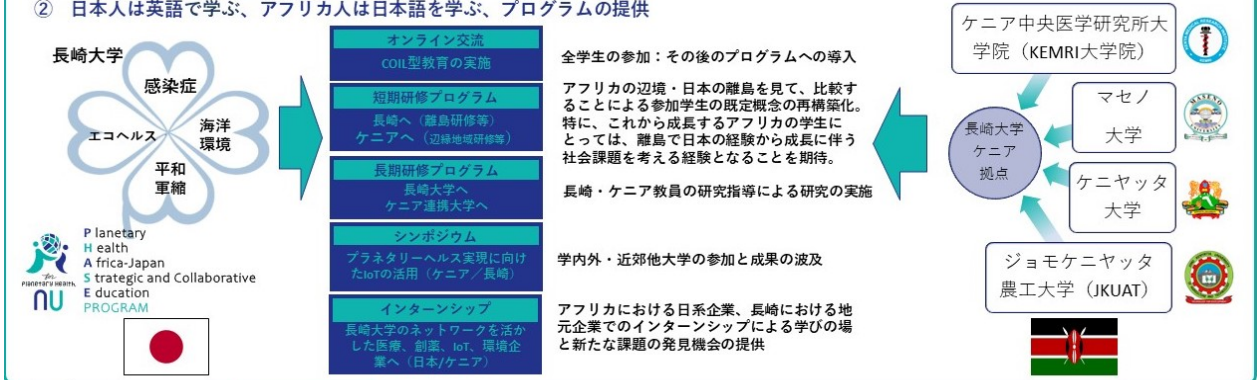
【交流推進事業の概要】

PHASE プログラム

目的：地球の健康に関するアフリカとの機動的かつ戦略的の大学間ネットワークを構築し、日本とアフリカの架け橋となり、地球規模の課題解決に向けた協働活動を指導的な立場から展開できる人材の育成。

内容(インプット)：

- ① プラネタリーヘルス、4テーマに関する講義・プログラムに参加し、異なる背景を持つ同年代の学生と切磋琢磨し、地域、母国、世界での自分に何ができるか考え、さらに
- ② 日本人は英語で学ぶ、アフリカ人は日本語を学ぶ、プログラムの提供



達成目標:

アウトプット：『地球の健康に関する課題解決を牽引する人材の養成』
 目標：「日ア延べ95名(派遣47名、受入48名)の学生交流」とする。アウトカムは、『地球の健康の実現』

アウトカム：『地球の健康の実現』

目標：「育成した人材がケニアのその他大学・研究機関と学際的に連携して、地球規模の課題解決に向けた教育研究活動を活性化させ、先導的活動を展開し、次世代人材育成につなげていくサイクルの構築」

【交流プログラムの概要】

本学は、『Planetary Health(地球の健康)の大学』を標榜し、地球規模の問題の対応・貢献を目指すために全学をあげた教育研究体制の整備と人材の育成を目指した「プラネタリーヘルス」プログラムを構築している。中でも、アフリカとの長い歴史をもつ本学は、アフリカでの医療保健と人間の安全保障の問題に注視した人材の育成を推進しており、人的交流も盛んである。これらを踏まえ、本プログラムは、(1)オンライン交流プログラム、(2)短期研修プログラム、(3)長期研修プログラム、(4)シンポジウム・プログラム及び(5)インターンシッププログラムを構成し、(2)～(5)については、実際に日本/ケニアへの渡航が伴うプログラムであり、新しい視点からの地球の健康実現に向けた実地での交流と人材育成プログラムである。

【本事業で養成する人材像】

- ・日アの架け橋となり、友好的発展に向けリーダーシップを持ち、アクティブに活動展開できる人材
- ・地球規模の課題解決に向け、最新技術や考え方を柔軟に取り入れ、指導的な立場から展開できる人材
- ・異なる環境を理解し、地球の健康に関する問題を共に考え、解決に向けた活動に取り組める人材
- ・本事業で形成する基礎コミュニティーを自発的かつ持続的に発展させることができる人材

【本事業の特徴】

本事業は、日本とアフリカの学生が、文化、社会、言語を通して培ってきた各々の価値観や信念に向き合い、異なる環境や習慣や考え方を持つ者として、お互いの地域の社会課題を一緒になって議論することで、地球規模の問題解決に向けた取組を考え、実行できる能力を身につけることを目的とする。学生は、日本とアフリカという全く異なる環境や文化の相違を徐々に理解し対話を始めるために、まずは、オンラインで「慣らし運転」を始める。その後、離島やへき地というそれぞれのフィールドを実際に訪問する短期研修、さらに、医学や保健学、社会学などの専門分野を中心に研究活動を主体とする長期研修へと交流を深め、最終的には、それぞれの専門性から地球の健康に貢献しうる研究を実施する人材へと成長することを目的とした包括的なプログラム構成を特徴としている。

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	0	3	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	4	4	4	4	4
受入	実際に渡航する学生	0	4	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	4	4	4	4	4